

各位

全5ページ
登録速報(2018-218)
2018年10月10日
クミアイ化学工業株式会社
企画普及部普及課

登録速報

1. 農薬の登録番号及び名称

登録番号：第23711号

名称：ベンケイジャンボ

2. 適用病害虫の範囲又は使用方法の変更の内容

農薬登録申請書第7項中、以下を変更し、別紙1【変更後】のとおりとする。

①作物名「移植水稻」の使用時期を「移植後3日～ノビエ2.5葉期但し、移植後30日まで」から「移植後3日～ノビエ3葉期但し、移植後30日まで」に変更する。

②作物名「直播水稻」を追加する。

3. 当該変更に伴い、農薬登録申請書の記載事項に変更を生ずるときは、その旨及び内容

農薬登録申請書第8項中、10)を追加し以降を繰り下げ、1)を変更し、別紙2【変更後】のとおりとする。

【追加部分】

10) 直播水稻に使用する場合、以下の点に注意すること。

①発芽直後の稲に対して薬害を生じるおそれがあるので、適切な覆土をおこない、稲の1葉期以降に散布すること。

②稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。

③除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布すること。

【変更前】

1) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに、時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリは3葉期まで、ヘラオモダカは2葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。

【変更後】

- 1) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期までに、時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリは3葉期まで、ヘラオモダカは2葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。

別紙 1

【変更前】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ オモダカ クログワイ コウキガハラ シスイ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植後 3 日～ ノビエ 2.5 葉期 但し、 移植後 30 日まで	小包装(ハック) 10 個 (250g)/10a	1 回	水田に小包装 (ハック) のまま 投げ入れる。

ピリミルファンを 含む農薬の総使用回数	フェニキサリホンを 含む農薬の総使用回数	ベンゾピシロンを 含む農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

【変更後】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ オモダカ クログワイ コウキガハラ シスイ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後 3 日～ ノビエ 3 葉期 但し、 移植後 30 日まで	小包装(ハック) 10 個 (250g)/10a	1 回	水田に小包装 (ハック) のまま 投げ入れる。
直播水稲	水田一年生雑草 及び ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	稲 1 葉期～ ノビエ 3 葉期 但し、 収穫 90 日前まで			

ピリミルファンを 含む農薬の総使用回数	フェニキサリホンを 含む農薬の総使用回数	ベンゾピシロンを 含む農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

【変更後】

8. 使用上の注意事項

【変更後】

- 1) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期までに、時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリは3葉期まで、ヘラオモダカは2葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- 2) オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは発生期間が長く、遅い発生のもものでは十分な効果を示さないで、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。
- 3) 苗の植付けが均一となるように、代かきおよび植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- 4) 散布の際は、やや深めの湛水状態（水深5～6cm）にして水の出入りを止めること。
- 5) 散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、入水は静かにおこなうこと。
- 6) 本剤は小包装（パック）のまま10アール当たり10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- 7) 藻類・表層はく離、浮き草などの水面浮遊物が多い場合は、本剤の拡散が不十分になり、部分的な薬害や効果不足を生じるおそれがあるので使用はさけること。
- 8) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、濡れた手で作業したり、降雨で破袋することがないように注意すること。
- 9) 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
 - ①異常高温の時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時
 - ②活着遅延を生じるような異常低温の時
 - ③砂質土壌の水田および漏水田（減水深が2cm/日以上）
 - ④軟弱苗を移植した水田
 - ⑤極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田
 - ⑥植穴の戻りの悪い水田

10) 直播水稻に使用する場合、以下の点に注意すること。

- ①発芽直後の稲に対して薬害を生じるおそれがあるので、適切な覆土をおこない、稲の1葉期以降に散布すること。
- ②稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
- ③除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布すること。

- 11) 梅雨時期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下するおそれがあるので使用をさけること。
- 12) 本剤を散布した水田の田面水を他の作物の灌水に使用しないこと。
- 13) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意すること。

- 14) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

以上